令和８年度　第３回　碧南市地域自立支援協議会　会議録

１　日時

令和８年１０月３０日（金）午前１０時００分から午前１１時３０分まで

２　場所

へきなん福祉センターあいくる　デイルーム

３　出席者

(1) 委員　２３名

碧南市社会福祉協議会　伊藤　正博（会長）

碧南市手をつなぐ育成会　三浦　志朗（職務代理）

日本福祉大学教授　青木　聖久

碧南市身体障害者福祉協会　鈴木たか子（副会長が代理出席）

碧南市民生委員児童委員協議会　小澤　昇

ＮＰＯ法人ハートフルあおみ（あおみＪセンター所長）水野　啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所　辻　辰憲

愛知県衣浦東部保健所　新美　萌子

愛知県刈谷児童相談センター　島村　真優佳

愛知県立にしお特別支援学校　早川　浩史

親子の会「カラフル」　鈴木　由記

身体に障害のある子の親子の会「すまいる」　永井　美幸

ほっとまんまピアサポーター　杉浦　有美

碧南市商工会議所　亀島　弘樹

碧南市農業委員会　山中　力四郎

スギ製菓株式会社　永坂　峰広

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる　川村　顕治

刈谷病院　水野　美香

サンフレア　高松　有美

就労センターオアシス碧南　大谷　大

ＷＨＪ相談支援センターメビア　浅野　将克

ＡＲＴＩＳＴ　ＪＡＰＡＮ　森脇　友理

グループホームノアン碧南　廣瀬　恵子

(2) 事務局

福祉部長　　鈴木　美奈子

福祉課長　　磯貝　浩

福祉課社会福祉係主事　中村　一輝

福祉課社会福祉係主事　矢野　友也

(3) 基幹相談支援センター（碧南市社会福祉協議会）

地域福祉課地域福祉係長　古川　裕隆

地域福祉課地域福祉係主査　小島　誠司

地域福祉課地域福祉係主査　久村　明弘

地域福祉課地域福祉係主事　坪井　優佳

地域福祉課地域福祉係主事　長谷川　祥子

地域福祉課地域福祉係主事　天野　好美

地域福祉課地域福祉係主事　角谷　有花

地域福祉課地域福祉係主事　大野　聖士

地域福祉課地域福祉係主事　田島　十和

地域福祉課地域福祉係主事　榊原　陽太

4　傍聴者

０人

5　議題

(1) 日中サービス支援型グループホームの評価について

(2) へきなん障害者ハーモニープランの計画骨子案について

(3) 各作業部会の取組状況について

議事の要旨

(1) あいさつ（伊藤会長）

(2) 議題

ア　日中サービス支援型グループホームの評価について

事務局、ソーシャルインクルー碧南宮町が会議資料に基づき説明し、その後審議した。慎重な審議の結果、問題なしと評価した。

＜主な意見・質疑＞

Ａ委員：定員が満員の際に利用希望があった場合はどのように対応しているか。

ｿｰｼｬﾙ：短期入所として利用していただきながら空きを待つ、岡崎・蒲郡など別の施設を利用しながら碧南宮町の空きを待つなど柔軟に対応している。

Ｂ委員：近隣住民とのトラブルはあるか。

ｿｰｼｬﾙ：駐車場が狭いため、送迎車を敷地内の駐車場に停めることができず、路上駐車していたことに対し､近隣住民から苦情をいただいたことがある。現在は、近くの神社の駐車場を借りて近隣住民の迷惑にならないよう対

処している。

イ　へきなん障害者ハーモニープランの計画骨子案について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

＜主な意見・質疑＞

Ａ委員：児童発達センターの機能を担っているのはどこか。

事務局：こども課、にじの学園が中心となり、センター機能を果たしている。

Ｂ委員：保健、医療、福祉関係者による協議の場の開催回数について、令和８年度の実績値が増加している要因は何か。

事務局：令和８年度から重層的支援会議を開催しているため。

Ｂ委員：会議内容にもよると思うが、医療機関として協力できることがあれば声をかけてほしい。

事務局：大変ありがたい申し出。ケースによっては相談させてほしい。

事務局：基本理念について委員の皆様のご意見を伺いたい。

Ｃ委員：障害者が支援を受けるだけの存在ではないというところが素晴らしい。

Ｄ委員：セルフプランの割合はどの程度か。

事務局：基本的には相談支援専門員がついているので、ほぼ０％であると認識している。

Ｅ委員：以前の計画では、ペアレントメンターとピアサポーターが同じ人数だったが、今回の計画案では人数に相違がある。以前の計画策定時にピアサポーターの人はペアレントメンターでもあるという理解で良いかと尋ねたところ、その判断で良いと回答をいただいた。今回の計画では考え方に変化があったのか。

事務局：過去の計画ではペアレントメンターとピアサポーターが同数であったことは把握している。今回、関係機関に確認したところこの数字になった。現状を確認しながら内容を検討していく。

Ｆ委員：児童クラブがこどもの発達のために重要な位置付けにあると認識している。ハーモニープランの中に記載しないのか。

事務局：委員ご指摘のとおり、児童クラブはこどもの発達のために重要な役割を担っていると認識している。こども課、保育課が所管している子ども・子育て支援事業計画の中で触れており、連携しながら事業を進めていきたい。

ウ　各作業部会の取組状況について

事務局、各部会長が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

＜主な意見・質疑＞

特に意見・質疑等なし。

エ　学識経験者（日本福祉大学　青木　聖久　教授）

４点まとめをしたい。

１．　ピープルファースト。障害者も地域行事等へ参加できると良い。調子の悪い時だけ支援するのではなく、穏やかな時にこそ関わり、共同体験をしていくことが重要。

２　プロセスゴール。検討の過程、プロセスが重要である。

３　ニーズにおける海面、海中、海底。言葉に、表面に現れないニーズを汲み取ることが重要。相談支援専門員がコミュニケーションをとり、様々な選択肢を示すことによって根底にあるニーズに迫ることができる。

４　メンタルヘルスに優しい碧南市を目指してほしい。

⑶　その他

事務局が会議資料に基づき、次回の会議予定等を説明した。

以上